

「将来を考える順番が大事」

延岡

北浦中 ミライキャンバス始める

延岡市北浦町の北浦中学校(川島正真校長、54人)は19日、地元で活躍する人の実体験に触れる進路学習「ミライキャンバス」の第1回講義を開き、3年生20人が自身の未来について考えた。

同校は「進路指導」進路指導」になっている。現在の現状を鑑み、今回、生徒たちに改めて将来どのように生きていきたいか、何をしたいかなどの長期的な展望を持ってもらおうと進路学習を企画。市キャリア教育センター

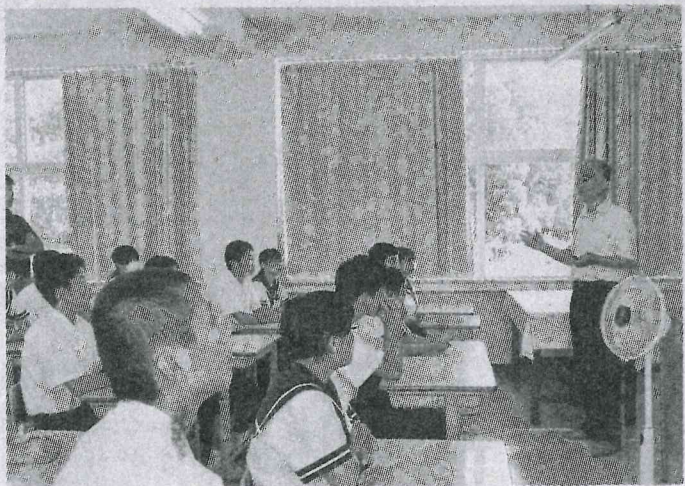


生き方や幸せについて説いた水永さん

長水正憲さんのアドバイスの下、全6回の開講を予定している。第1回は水永さんが講師を務め、「君たちはどう生きるか?」と題して講演した。主要な

移動手段が馬車から自動車に変わり始めた時期に触れて「当時、馬に携わる人たちの職が失われるという懸念が大きかったが、現在では自動車関連産業が

トッパークラスの雇用を生み出している。これと同様に、AIをはじめとする技術の進歩が、今は存在しない職種を生み出していくと、「社会は可能性に満ちている」と話した。講演を通して「幸せとは何かを考える」とともに、①自身の生き方、在り方をイメージする②足りないものを身に付ける③そのため学ぶことができる高校、大学を選ぶ④の重要性を示唆。これが将来を考えるという点と、順番を大切にしたい」と生徒たちに



北浦中が始めたミライキャンバス。北浦

呼び掛けた。杉本慶次郎さんは「これまで幸せについて真剣に考えていなかったと気付いた。きょうの話を今後の人生に役立てたい」と話した。

来年2月まで、月1回のペースで開講予定。次回は、水産加工品の製造販売、鮮魚の卸・小売業を営む「新海屋(北浦町)の小川裕介社長が講師を務める予定。

2019.9.25